

日本あちこち河川遊行記(第236回)

京都 1-2. 桂川(その2)平成30年3月23日(金)快晴

4日続いた菜種梅雨も収まり、足の具合も少し良くなったので遊行を再開する。相生行きは18切符利用組で座席が埋まり立っている人も出てくる。新幹線は社用に、個人は18切符利用と棲み分けが進んでいる。高齢者が増え安いグループ旅行の需要が増えているのだからシルバー65切符を通年発売するころだと思っただが・・・。

今日は竹馬の友と一緒に2年半ぶりの歩きである。須磨付近で線路に人が立ちいったための安全確認でダイヤが大幅に乱れている。予め連絡しておいた大阪からの電車も乱れているので、下車駅の「長岡京」駅で落ち合うことにする。30分遅れの新快速を高槻で降りる。これまで2面6線の駅の線路の両外側の通過線に新しくホームが出来ている。幅の狭いホームでの危険を避けるために新快速専用のホームが出来たのだ。普通や快速に乗り換えるのには不便になったが安全性が向上したのは良いことだ。ホームには最新のロープ式ホームドア(?)が付けられている。頭上高く開口部に張られた4本のロープが発車する時に支柱と一緒に降りて来て開口部を塞ぐシステムである。これなら幅広く進入防止が図られるので、ドア式なら停車位置を正確にする必要に迫られる運転士も気が楽になるだろう。



01.高槻駅の新設された新快速ホームにはホームドアが

02.間口の広い最新のロープ式だ

駅の改札口から一旦出てコンビニでサンドを買ってホームで普通電車を待つ。ホームの端の椅子で昼を摂っていると遅れていた普通がやって来て乗車。京都～明石間にはJRになってから新駅がずいぶんと増え、島本なる駅も開業している。15分ヘッドの新快速の速達性から普通電車停車駅がどんどん増えている。お蔭で阪急、阪神、山電は大変でっせ!

13時12分「長岡京」駅で降り、ホームを階段に向かうと竹馬の友が同じ電

車に乗っていたようで直ぐに見つかる。近づくともう一人が居り、なんと小学校の同級生ですぐ近所に住んでいた女性である。3人は小学校の5,6年生の時の同級であった。サプライズにビックリポンやー。この駅はかつては難読駅の「神足（こうたり）」であった。明治の駅開業時の村名を駅名にしたが合併が進み今では市名と違うので改名された。



03.JR 長岡京駅に降りると竹馬の友も同じ電車に乗っていた

駅東口に出ると早速のマンホールが顔を出しているのでカシャ。絵柄は山城名産今が旬の筍である。小学生のころ、この地区の西に竹林を持っていたおばさんが大きな背負い籠に湿った土の付いた大きな筍を阪急電車に乗って売りにきたのを思い出す。直ぐに大きな釜に米ぬかを入れ茹でていた。

U字型の駅前広場の右側のバス乗り場の横にも筍の石柱が立っている。長岡天神の公園の中には筍料理で有名な料亭も有る。



04.長岡京市は有名な山城筍の産地だ

05.駅東口のバスターミナルにも筍が

直ぐに京都市営バスが到着し折返し竹田駅西口行きとなる。薄緑色と濃緑色を組み合わせた懐かしい市営バスであるが車体は小さい。途中の免許試験場前からどっと若者が乗り満員となる。今日は先日最後の橋の次の橋となる「羽束

師橋」最寄の「菱川」バス停でバスを降りる。この地名はハズカシと読む面白い地名だ。「どこに住んではんの?」、「はずかし」。



06.何十年ぶりかの京都市営バスに乗車 07.菱川バス停で下車、川に向かう

橋の手前から府道 79 号の車道は高架橋となり歩道の頭上に桁が有る。コンクリートスラブの桁が地震時に移動しないように橋脚の端に突起を継ぎ足してストッパーとしている。やがて桂川右岸の土手が現れ歩道も土手に上がる。上がった所に淀川河川事務所の出張所の管理境界標が立っている。橋は二階建て構造で歩道は下段の真ん中に広く取られている。何故歩道を分離して建設費の高くなる二階建てにしたのか分からない。高規格の環状道路の先取りをしたのかな?



08.橋脚の幅が狭いので落橋防止のための突起を追加 09.ここが事務所内の担当境界点



10.二階建ての「羽束師橋」の下段は自歩道だ

二階建て橋の下段の歩道を歩き左岸側に出て土手の上の桂川自転車道に合流する。北東方向に進むと直ぐに二次支流の「鴨川」が合流してくる。あの有名な鴨川である。今日は千鳥も騒がず、血の雨も降っていない。鴨川は2km以上の間桂川の東側を寄り添った形で平行して流れている。水量の多い川へ合流する時の川の知恵である。



11.桂川に右（東）から有名な「鴨川」が合流

高い土手の下には並行して道が続き集落が続いている。伏見区下鳥羽地区である。江戸幕府崩壊の元になった「鳥羽伏見の戦い」の地で、その戦跡の記念碑が立っている。土手下にはお寺も多く有り、かつての鳥羽港の賑わいを感じさせる。大きな掲示板に「法傳寺」と書かれたお寺は法の字が付いているので法然上人開基の浄土宗のお寺だろう。「日」が付いていれば日蓮宗なのと同じだ。



12.ここで官軍と幕府軍が戦った

13.「法」の字が付く寺は「浄土宗」

川は少しずつ方向を北の方に変わり、柳の巨木が2本幹をくねらせながら立っている。柳と言えば柳腰に代表されるように細いイメージが有るが、この2本はそうじゃありません。ロシアの女性を連想する。巨木に若葉が出だし、何とも珍妙な姿である。この辺りは京第二の川港であった証拠の解説板と高水敷に川から引き揚げた巨石が有る。両川の間三次支流の「西高瀬川」が入り込んでくる。京都盆地には多くの川が北から南に流れ桂川と淀川に合流する。



14.柳の巨木も若葉がうっすらと

15.「鳥羽川港」で川底に落ちた巨石の再説

絶好の遡行日和となり老人3名はゆったりとおしゃべりをしながら土手路を歩く、「は一るのうらーらーのかつらがわー」である。府道202号が東西に走り、鴨川、西高瀬川、桂川と3河川を越えて行く。最初の鴨川に架かる「京川橋」を渡り桂川に戻る。

西高瀬川の土手の小公園では今年初めて桜が咲いているのを見る。枝垂れ桜である。幼友達のながちゃんを桜の元でカシャ。桂川に架かる「久我橋」を診て左岸側を北北西に針路を取る。やがて名神高速の桂川橋に到る。半世紀以上たった橋はもはや古参の域に達している。国道を始め地方道の橋の状況が良く

なっているのに反し高速道路は芳しくない。



16.名神の桂川橋は△だぞ

南区上鳥羽地区を進むと新しい京都市の消防学校の大きな建物群が建っている。川を歩いてきて多くの消防訓練施設を見て来たがここのは凄いぞ。日本の消防は世界最高だと思っているがその基はこのような訓練施設と訓練、装備にあるのだ。鉄骨に覆われた建物では丁度訓練の真っ最中である。「お気持ちやす」。



17.京都市の消防訓練施設は規模が大きい 18.今日も大勢の消防士が訓練中

出来立てホヤホヤの「祥久橋」を越え国道171号（西国街道）の「新久世橋」と直ぐ隣の「久世橋」を見る。新橋は西行きに、旧橋は東行きに区分されている。古い久世橋はその内に解体され新橋の横を拡幅して4車線化されるのだろう。

予定では2km先の橋まで見て阪急桂駅から帰路につく予定であったが足の具合と梅田での懇親会を考えて今宵はここまでとしてJRの新駅「桂川」駅に向かう。大阪駅のホームの一部にもホームドアが設置されている。こちらは良く見かけるドア方式である。



19.大阪駅の一部のホームにはスライド式のホームドアが有る

阪急梅田駅の地下の子供のころからの馴染みの店で暫し楽しい時間を過ごし新快速に乗り帰路につく。

本日の歩行距離：7.7km。調査した橋の数；7。

総歩行距離：9,855.5km。総調査橋数：11,891。

使用した 1/25,000 地形図：「京都西南部」（京都及大阪 7号-1）